

# 生研ニュース

## 新しい協力体勢を作る塑性加工研究会

塑性加工にたずさわる研究者、技術者の分布は非常に広い範囲にわたっている。研究成果は、機械學會、金屬學會、鐵鋼協會、精機學會等の諸學協會に分散して發表されている上に、工業界の関連する業種にいたつてはさらに種類が多いため、塑性加工を横に貫く共通の基盤が缺けている。またここにも工學と工業との遊離の悩があつて、學會と業界との關心の中心の疎隔をなげく聲もある。

このような事情にあるため、機械技術と金屬技術、研究機關と生産工場、これらの横の連絡體勢の確立こそ、塑性加工の研究の進展と技術の向上のために切望される當面最大の課題である。

當所の鈴木助教授(2部)は、この課題への一つの解答として、昨春塑性加工研究会の誕生を斡旋した。會員勧誘のための特別な方法は採らないで、聞き傳えた人の参加にまかせる消極的な態度をとつてきたにもかかわらず、會合を重ねるに従つて會員數は次第に増加して、現在では研究機關にある人約50名、諸工場の技術陣から約70名の加入を見て、會場の撰定には苦心する程度の人數にまでなつた。

内外の新しい研究成果の發表・紹介や、これらの檢討を通じて得られた收獲は多く、特に斯界の大先輩と學窓を出て間のない若い技術者とが卓を圍み膝を交えて、共通の問題を研究する空氣は、學會の講演會では味い得ない協力感に満ちたものである。

會の成果があがるに従つて、今後の活動にさらに新しい期待と要望が寄せられて、もはや一鈴木研究室による運営は困難な程度に達したので、擴大再發足のための脱皮をすることになつた。あらたに

石田四郎(明大教授) 寺澤一雄(阪大教授)  
覺前睦夫(同大教授) 福井伸二(東大教授)

春日保男(名大助教授) 益田森治(東工大教授)  
川崎正之(東北大助教授) 三島徳七(東大教授)  
五弓勇雄(東大助教授) 山内 弘(早大教授)  
鈴木 弘(東大助教授)

が發起人になつて、全國の工場と個人に呼び掛けて、學協會と同程度の規模の組成を新に作つて運営することになつた。

塑性加工に関する研究の促進と技術水準の向上とが目的であるが、既存の學協會の活動面と重複する種類の活動は控えて、むしろ緊密に協力する立場をとるのが基本方針である。したがつて資料・文献の入手・配布等を通じて全會員の技術の向上と協力ををはかるとともに、種々の専門研究班を作つて、會員の多數が關心を持つ問題の共同研究を進めることが企畫されている。

工學と工業との緊密な協力體勢の樹立は、大工場にとつては明日の技術を養う原動力となり、中小工場にあつては今日の技術の確保となるもので、生研創立の趣旨とも合致するので、研究会の事務部は當分生研内におかれる。

## 丸安助教授土木學會賞受賞

本所第5部の丸安隆和助教授(工博)は土木學會誌第36巻第12號に發表した「地上寫眞の圖化法と地籍測量への利用性について」という論文に對し土木學會々長大西英一氏から昭和26年度土木學會賞を贈られた。(1952-5-24)

# 部 外 活 動

## — 寄 稿 —

◇教授 久保田 廣, 特研究生 中村日色, 「On the Effect of Errors of Micoid Disc in Polanret Microscope」, Journal of the Physical Soc. Japan (1952-1)

◇教授 久保田 廣, 「On Hypersensitive Polairzation Colors」, Journal Opt. Soc. America. (1952-2)

## — 講 演 —

◇教授 久保田 廣 「旋光性結晶における干渉色について」, 光學及光學機械分科會 (1952-4)

## 編 集 後 記

◇原子力の解放やジェット航空機の進歩が、果して人間を幸福にしたかどうかについては議論が多いところであるが、アメリカの TVA で知られるテネシー開發計畫や、ソビエトの自然改造計畫が人間の生活にプラスしたことは、

100% 斷定してよいと思う。資源に乏しいわが國でも、世界のきびしい經濟競争の中に生存してゆくためには、比較的豊富な電源を開發して、その動力を工業その他にふりむけて行く以外にうまい手はなさうである。  
◇本號はこの日本の天然資源のホープともいえる電源の開發に關係した問題を、主として技術面から檢討して、この方面で、現在どんな點がネックになつているかを明らかにしようと企圖したものである。電源開發の主體をなすダムの

構築にしても、或は天然の地形や水理を巧みに利用する方法にしても、新しい技術を應用して科學的合理的な建設、運営を行う餘地がまだまだいくらでもあることを理解して頂ければ幸である。

◇經濟安定本部の阿部滋忠氏に「輸送と電力」についての玉稿を頂きながら、實數の制限があつたために割愛するやむなきに到つたことを誌上をかりてお詫び申上けたい。(M.W.)

本誌のバックナンバー合本 在庫僅少あり至急お申込下さい。	第4巻第8號 生産研究 定價 90圓 地方賣價 95圓 (郵税4圓) 1952年7月25日印刷	1952年8月1日發行
昭和25年下半年470圓 千50圓	編集者 友田 宜 孝 東大生産技術研究所 千葉市千葉局内彌生町 電話 千葉 366~370	印刷所 大同印刷株式會社 東京都千代田區神田錦町3-1
昭和26年上 " 490圓 "	發行者 小川 誠 一 郎	發行所 株式會社 誠文堂新光社 東京都千代田區神田錦町1-5 電話 神田(25) 2126~2129 番 替 東京 6294・6567
昭和26年下半年545圓 "	印刷者 井 關 好 彦	
昭和27年上 " 575圓 "		